

紀泉病院

(平成 23 年 8 月 12 日訪問)

平均在院日数 812 日 (2011.10.4 付)

積極的な取組など

- ・ 病棟毎に分かりやすい入院のしおりがあった。1・3・5 病棟では同じような体裁、内容だった。2 病棟では大きなサイズで、丁寧な説明があった。
- ・ 入院のしおりに、医師毎の診察曜日、患者や家族が主治医に相談する方法や、相談を勧めるようなことも書かれていた。デイルームの黒板にはその日に診察する医師の名前が書かれていた。
- ・ 隔離室にナースコールがあった。

病院全体

開放病棟にテレビ・パソコン・携帯電話の持込ができるようになった。外来受付の目立つ所に大家連のリーフレットがあった。サポーターを病棟まで案内した PSW に、患者が慣れた様子で声をかけていた。

金銭管理

自己管理の患者は開放病棟に数名いるだけで、「自己管理できていた患者は退院した」との説明。管理費は無料。ロッカー代は 1 日 20 円。

退院支援(病院の説明)

急性期の患者はあまり積極的に受入れられていない。『家でみられないから置いてくれ』と言う家族もいる。退院や 1 人で住むことが不安な患者も多く、そういう人が増えてきた。そのため入院患者向けに退院促進事業は茶話会を月に 2~3 回行っている。地域活動支援センターの職員や退院した患者の話を聞く機会をもっている。支援センターに行くこともある。現在は支援員がついている患者はいない。

PSW は病棟担当 5 名、デイケア 1 名、援護寮 2 名。

前回の訪問(平成 17 年 9 月)から改善されていたこと

公衆電話は詰所から離して設置され、囲いが付いた。デイルームの一角に喫煙室ができ、分煙されていた。意見箱への投書に対する回答が掲示され、過去の回答も閲覧でき、丁寧な回答がされていた。トイレは、床のマットは掃除をしやすいタイルになり、男女共用トイレは別々になっていた。

病棟の様子

病室は 4 人部屋が中心で、2 人部屋から 6 人部屋まであった。1 病棟以外は鍵付部分のある床頭台が各ベッドに設置されていた。各病棟内には面会室もあるが、病室で面会している様子も見られた。閉鎖病棟のデイルームにはお茶の入ったやかんがあり、開放病棟のデイルームには飲み物の自動販売機やお茶の入ったやかん等が置かれていた。

詰所前に「入院中の精神障害者の権利に関する宣言」が掲示されていた。病棟入口には看護師等の職員の顔写真と名前が掲示されていた。1 病棟では 160cm より高い位置に貼られ、多くの患者には見えないのではないかとと思われる。

1 病棟 閉鎖 男女 精神一般 70 床「老人病棟」

最近では介護の必要な患者が増えてきている為、この病棟だけでは対応できず、他の病棟にも約 20 名づつは要介護の患者がいる。テレホンカードは、使う度に渡している(7~8 名が利用)。

車椅子で拘束帯が付けられ、立てない患者も多く見られた。歩けないのに立とうとするから、転んで骨折しないように拘束しているとの説明だった。

詰所の隣の病室は男女同室だった。見守りが必要な患者の「観察室」であるとの説明だった。柵付のベッドの中で寝ている患者もいた。

午後 2 時半過ぎに、缶コーヒーとバウムクーヘン等が配られていた。患者は急いで食べているように見えた。午後 2 時 50 分にはデイルームはすっかり片付いていた。

トイレは尿や便の臭いがした。トイレの個室内では、使用後に流していない所、紙がたくさん落ちている所、尿がこぼれている所がいくつもあった。特に女性トイレの個室は全て流されていなかった。水洗用のボタンが堅いことや押しにくい位置にあるためかもしれない。トイレは男性・女性の表示はあるが、患者によっては関係なく使っている様子だった。浴室は増改築が行われ、機械浴やスロープを作り、深い浴槽も改善されたとのことであった。

患者は皆同じ色のタオルを、首にかけたり、歩行器にかけていた。患者の服は様々だったが、病院が貸し出している服で、まとめて洗濯し共用で使用する。殆どがオムツ使用とのこと。

患者の声

「5 年位入院している。OT は楽しいし食事も美味しい。職員はいい人ばかりだが、スケジュールがきつくてしんどい」「入浴と OT の重なる日は忙しい」「外に出ることはあまりなく、欲しいものもない。困っていることも特にない。風呂もゆっくり入っている」「病院

は高台にあり、遠く淡路島や関西空港が臨め、船や飛行機も見える。デイルームから見える三日月と病室から見える満月がきれい「入浴の後、身体に合う服がなかなか見つからない」「薬は食後に詰所に並んで飲む」「おやつは缶コーヒーだけの日もある」

2 病棟 閉鎖 男女 精神一般 70 床「治療病棟」

40 代以上の患者が多い印象だった。日当たりは良く、室温は適温。訪問時、病棟端にある活動スペースで、作業療法士が進行しながらカラオケをしていて、40 名程度の患者が参加していた。また、同時時間帯に病棟右端の廊下で、理容師が来て散髪をしていた。カラオケ後も、大半の患者は廊下やデイルームに出て過ごしていた。5~6 名は、廊下でしゃがみこんでいた。おやつの時間になると、詰所前の廊下壁際に長机が数台配置され、患者は廊下の壁に向かって着席し、おやつを食べていた。

隔離室

詰所奥に4室あった。鉄扉の周囲は強化ガラスの窓になっていて、日差しが届く。便器周りには天井まで仕切りの壁があった。水洗は室内からはできず、職員を呼んで流してもらう。壁に押しボタン式のナースコールが設置されていた。各部屋にカメラがあり、詰所のモニターに写されていた。室内からは廊下の時計が見えた。現在使用はしていないようだが、鉄扉の下部に食事トレーを出し入れできる大きさの小窓があった。

患者の声

複数の声「テレホンカードは預けている」「ちゃんと診察してくれてる」「外出はできず、売店に行くだけ」「テレホンカードは4枚とも預けている。持てない」「物がよくなる」「先生も看護師も、ちゃんと話を聞いてくれる」「30年入院している。皆よくしてくれる。ここにいたい」「3年入院している。退院したい。主治医の先生の退院話は口だけだ」「僕のことを人として見てくれているのは、ここには2人位しかいない」「入院して5年。『ふれあいホーム』という施設に入りたいが、退院の具体的な話は出ていない」「毎金曜日に診察がある。その他に回診もある。食事もいいし、親切でいい病院だと思う。退院したいと思っているが、母親がOKしてくれない」「1回だけ外泊訓練をした。薬は詰所で貰う。小遣いは1日200円を詰所で貰っている。退院したい」「31年間入院しているが、退院の話は出ていない。朝昼夕晩と3錠ずつ薬を飲んでいる。食事はおいしい。小遣いは1日300円、詰所で貰う。外に出たいとは思わない。ここがいい」「ご飯は普通。施設に入ると35万円程かかるが、ここだと13~14万と小遣い4~5万円で済む。外出は時々する。リハビリをして欲しい」「入院3ヶ月。ご飯

はまずい。家の風呂に入りたい」「模擬店やレクがあるので、不満はない」「退院、退院と言っていて、退院させてくれない」「退院したい。以前に退院した時タバコでボヤを出したので退院させてくれない」「ご飯はおいしい。明日、盆踊りがあるので、楽しみにしている」「入院1年。退院の話は出ていない。薬の説明はない」

3 病棟 開放 男女 精神療養 60 床

5 病棟 開放 男女 精神療養 60 床

2病棟併せて任意入院77名、医療保護入院41名。全員が開放処遇。40代以上の患者が多い印象。日当たりが良く、室温は適温に感じられた。トイレ以外の場所では、気になる臭気は感じられなかった。診察は詰所横の診察室で行われる。看護師が「〇〇さん、診察ですよ！」と大声で呼び、呼ばれた人は廊下の長椅子で医師に呼ばれるのを待っていた。呼ばれる前に診察室前に来ている患者もいた。

患者の声

「明日の夏祭りが楽しみ」「洗濯物は家族に来てもらえる人は私服、病院の服を使う人もいる」「親が亡くなり、兄弟は面会に来てくれることがない。退院して、施設で生活したい。相談できるのは、主治医と担当ケースワーカー」「かなり古くからいる。いいことも悪いことも特にない」「デイルームでも病室でも食事ができる」「不自由はない。お金は持っている。売店で自由に使っている。OTではモノ作りをしているが、人によって違う。土日以外毎日している。入院して1年半。カーテンがない部屋にいる。洗濯は頼んでいるが、料金は分からない。今の病院は薬がちゃんと飲めるからいい」「合わない人がいる。部屋を変えてもらった。主治医にも訴えたい」「車椅子だとバカにされるから悔しい。病室を替えてもらった。お金は親がくれる。物を盗る人がいるのが困る」「本当はオムツをしたくない」「父親が反対するために退院できない。どうしたらいいのか」と言う患者に対して隣の患者が周りを見ながら小さな声で「あかんって、そんなん言わんとき」と話していた。

検討していただきたい事項

長期入院患者の退院支援について

5年前と比較して平均在院日数は540日から812日に増加していた。高齢の患者らが「死ぬまでここにいるしかないやろ」「家族が生きている限り退院できない」「不満はない、ここにいさせて欲しい」と漏らす声は、彼らが長期入院の末に退院の希望を捨ててしまっている心境を表しているのではないだろうか。(病院:現在急性期の受入体制を主とせず、施設入所困難な重症固定例を受入れているため、在院期

間の短縮は急には困難である。今後も、短期受入による平均在院日数の表面的な削減でなく、慢性期患者の地域(中間施設)への移行も一つの目標である。))

患者の接遇について

患者から「職員の対応がひどい」「言葉遣いなど患者への対応がきつい職員がいる」との声があった。訪問時も「〇〇して下さいね」ではなく、「〇〇してや」という言い方をあちこちで聞いた。(病院:「言葉遣いが悪い」「きつい言い方をされた」等々の患者の声に対しては個人から話を聞き注意し、場合によっては報告書の提出を求めたりしています。研修については接遇アンケート調査を行ったりしていますが、今後は研修の機会を増やし、接遇改善に努めてゆきます。早速別添の記名アンケートを、ヘルパー、職員の一部に配り、意識をさらに向上させます。)

個別の状況にあわせた配薬方法を

自分で歩くことのできる患者については、薬は自分で詰所等へ取りに行くことになっていた。(病院:療養病棟で薬の自己管理(1日分)をしている人は6名で、配薬は部屋で行っています。閉鎖病棟に於いて歩ける患者の部屋での配薬につきましては今後個別に検討してゆきます。)

使わない拘束ベルト

ベッドに使われていない拘束ベルトが付いたままだった。(病院:拘束指示の出ている患者は状態を観察しながら昼間は出来るだけ車椅子への移乗もしくは解除にて観察しています。一時解除した場合、そのままにしておく事は配慮に欠いていました。今後は必ず回収するよう徹底します。)

入浴の回数

入浴が週2回というのは少ないのではないだろうか。(病院:H21年12月より開放病棟において週3回の入浴を試行しました。現在、希望者には週3回の入浴を継続して行っています。シャワー浴については希望があればいつでも出来るようにしています。アンケート調査を行ったところ、当初は3回に増えて良かったという人が50%いたのですが、現在は「洗濯物が増えて困る」「面倒くさい」「週2回の方が良い」等の意見も出ています。)

デイルームの畳の摩耗について 2病棟

デイルームの畳スペースに、半畳程の大きさと、激しい摩耗(畳の表面が全て削れている状態)が見られた。(病院:摩耗の激しい畳は交換します。今後チェックは十分に行っていきます。)

訪問後の意見交換で検討をお願いしたこと

- ・カーテンがないベッドが各病棟にあった。カーテンを設置したうえで、自由に開閉できる居室作りが必要と感じられた。(病院:再設置について検討します。)
- ・1病棟でおやつをテーブルに直に置いたり、患者に手渡していた。(病院:おやつ用の小皿を購入し、H23年11月3日より使用するようになりました。)
- ・男性の小用便器の足元にタオルが置かれていたこと、PSWへの相談しやすさの確保、1病棟の出入口の音楽が大きく、デイルームまで響いていたことなどについても改善をお願いしたい。(病院:男性の尿こぼしは解決に苦慮中です。タオル交換も頻回にします。解決法について御教授願います。PSWの相談窓口とチャイムの音は検討します。)

おたずね

- 病院全体で服の貸し出しを利用している患者は何名でしょうか。(病院:1病棟はほぼ全員65名に下着を含め貸出し、他の3病棟は約40名、主に失禁患者で下着も貸出す。病院全体で100名余です。)
- 2病棟では「特定の職員による類への平手打ちは日常的に目にしている」、5病棟では「叩く職員がいる」との訴えがありました。これらは事実でしょうか。(病院:調査しました。言葉遣いに対する意見はありましたが、暴力に関して上記の様な事実はありませんでした。以前より職員の対応に関して問題があれば遠慮なく申し出るか、もしくは話づらい場合は無記名でよいので提案箱に入れて下さいと伝えています。今までも暴力に対して提案箱に入っていた事はありませんでした。今後は患者の体に触れる時等注意するよう指示しました。)

精神保健福祉資料より(平成23.6.30時点)

256名の入院者のうち統合失調症群が158名(62%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が52名(20%)、気分障害が21名(8%)。入院形態は任意入院59名(23%)、医療保護入院95名(37%)。在院期間は1年未満が59名(23%)、1年以上5年未満が95名(37%)、5年以上10年未満が44名(17%)、10年以上20年未満が27名(11%)、20年以上が31名(12%)。